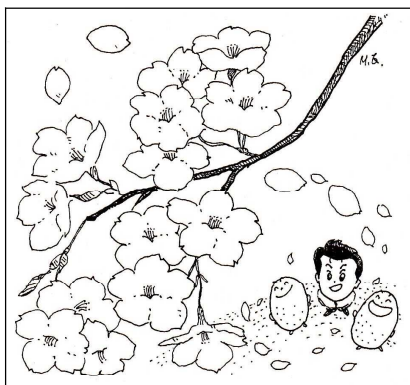


# ジャガイモ

令和6年 5月 7日

## 「桜色①～体力測定・宿泊研修編～」

校長 江口 満



4月に入り、私は、春の陽気に誘われて、カメラを片手に本校を出発しました。まずは、黒崎方面に向かってみました。

しばらく歩くと、辺り一面に清浄な空気が満ちていました。ふと目を向けると鳥居の背景に満開のソメイヨシノ。私は、その「桜色」に引き込まれ、貴船社の境内に通じる石段を一気に登りました。春の息吹が、確実に、この地にも訪れていました。

冬の間、モノクロでくすんでいた世界が、桜の開花と同時に、一気に彩色が施される。それぞれの植物が自己主張し、土や水の香りとまじりあって、空気そのものが甘くなる。そして、桜の木々が存在する空間が、日常の時間を超越しているような感覚を覚える。本校周辺には、そのような桜の名所が随所にあります。

それから私は、その境内から「桜色」を求めて、河頭山公園、猿田下池、桃園運動公園へと歩を進めました。しかし、この地区の桜並木も、「一朝一夕」で作られた訳ではありません。地域の方々が、丹精込め、長い年月をかけ育て、じっくりと、守ってこられたからこそその風景です。(次頁へ)



4月、春の暖かな陽光に映える本校本館の桜と新館

4月10日(水)体力の限界に挑戦する二、三年生の皆さん(体力測定の様子)



50m走



シャトルラン



握力



ハンドボール投げ



立ち幅跳び



私たちはともすると「一気に花を咲かせたい」「光り輝きたい」と思ってしまうがちです。私も若かりし日々、そうでした。しかし、そう思い通りにはいかない。スポーツ選手にしても、様々な分野の一流の方々にしても、その人の輝きは、人一倍の努力と忍耐の末にあることを知らなければなりません。

そして私は、桜の花びらの色、「桜色」が大好きです。桜の花びらの色は、自己主張せず一歩後ろに引き、身につけた人の頬をそっと「桜色」に染めてくれる。そして、「桜色」には、私たちがどこかに置き忘れてきた日本の心があるとも言われています。【次号に続く】

宿泊先の玄海青年の家



4月17日(水)から一泊二日で行った本校伝統行事・学年間の親睦を図る三学年合同の宿泊研修の様子



入所式



元気いっぱい夕食の様子



夜のレクリエーションは恒例学年対抗ドッチボール大会だ。最初は上級生に恐る恐るボールを投げていた下級生も、最後は遠慮も捨てガチンコ勝負に挑む。

